

アーカイブズにおける教育と情報リテラシー —図書館における情報リテラシー及びメディアリテラシーとの比較から—

Information Literacy in Educational Activities at Archives - Compared with Information Literacy in Libraries and Media Literacy -

鎌 田 均
KAMADA Hitoshi

Archives at higher educational institutions in the United States have been developing educational programs for students. This paper examines learning impacts or objectives in these educational activities and highlights information literacy elements for their effectiveness beyond archival settings. It discusses the characteristics of information literacy in educational activities at archives, in comparison with information literacy at libraries and media literacy.

1. はじめに

アーカイブズという機関は、一般にはなじみが薄く、研究者など特定の目的をもった調査を行っている人のみが利用する場所というイメージがあるかもしれない。しかし、デジタルアーカイブズの普及により、これまではアーカイブズを訪問しないと目にする事ができなかった資料がオンラインでどこからでもアクセスできることから、より多くの人々がアーカイブズ資料を利用できる可能性が広がっている¹。アーカイブズと類縁する機関である図書館では、情報リテラシー教育と呼ばれる、図書館利用者に対する、情報を適切かつ効果的に利用できる能力を養う教育活動が以前から重視されてきた。アーカイブズという機関においても、このような利用者に対する教育が行われてきた。アメリカにおいては、とりわけ今世紀に入ってから、利用者教育への関心がアーカイブズに携わる人々の間でも高まってきた²。アメリカでは大学のアーカイブズへの認知度を高め、そこにある資料の存在を学生により知ってもらうことで、アーカイブズが学生の学習に有効に活用されることと、そのための学生に対する教育の有効性が指摘されている³。日本国内においても、アーカイブズ所蔵資料を利用した教育活動の事例が挙げられ、情報リテラシー教育のための、高等学校でのアーカイブズを利用した教育の重要性が論じられているように、アーカイブズ資料の教育での利用が実践されている⁴。

情報リテラシーという言葉は、図書館の分野においては、情報を認識し、検索し、評価、利用できる能力として位置付けられてきた。また、情報化社会と呼ばれて久しい現代社会におい

て情報やメディアを理解する能力について、図書館以外の分野では、メディアリテラシーという、メディアを理解するために必要な能力が代表的なものとしてある。メディアリテラシー教育は、欧米の初等、中等教育を中心に教育現場での実践が進んでいる。このような、情報またはメディアに対するリテラシーについては、情報技術に関するリテラシーとも絡み合って様々な考え方、用語が提唱されている⁵。例えば Koltray は、これまでに現れた様々なリテラシーの概念について、情報リテラシーとメディアリテラシーを主要なものとし、メディアリテラシーの側からの比較、検討を行っている⁶。様々なリテラシーの内容、定義があるにせよ、情報化社会と呼ばれて久しい現在では、情報テクノロジーの進展と相まって、多くの情報、メディアが氾濫する状況となっており、このような能力の重要性が増しているといえる。

このような、情報、メディアに関するリテラシー教育において、アーカイブズにおける教育は、どのように位置付けられることができ、そこにはどのような特徴があるのであろうか。本稿では、アメリカの大学において実践されている、アーカイブズによる教育活動にみられる情報リテラシーの要素を検討する。個別の実践の事例については既に多くの報告があるが、とりわけ書籍としてまとめられているものを中心に、それらの教育目的、教育効果を調査する。それらの中で、アーカイブズに限定されない、一般的な情報リテラシー能力と関連する内容に着目し、その特徴について、近接分野のリテラシーの主要なものとし、図書館における情報リテラシー教育、メディアリテラシー教育と比較し、それらの動向を踏まえて検討したい。

2. アーカイブズにおける教育活動とリテラシー

(1) 教育内容の要素

アーカイブズにおける教育に関して、Yakel and Torres が、利用者がアーカイブズを使いこなすために必要な能力について検討し、その能力を構成する三要素を挙げている。まず、調査、研究対象に関する主題知識 (domain knowledge) が挙げられる。そして、資料を分析、評価する能力である資料読解能力 (artifactual literacy) がある。これらに加えて、アーカイブズにある原則、慣例、アーカイブズ機関についての知識が必要であるとし、「アーカイバル・インテリジェンス」(archival intelligence) と称している⁷。そこには、「利用の規則や手続きの背景にあるアーカイブズの原則、仕組みに対する理解、研究課題設定のための資料探索の方策を見つけ出す能力、また、[ファインディングエイドなどの検索手段にある、その資料についての記述のような] 資料の代替物と実際の資料の内容とを関連づけることができる能力」⁸などが含まれるとしている。本稿では、これを参考としつつ、アメリカの大学アーカイブズにおいて行われている教育活動に見られる教育内容、目的を以下のように整理してみた⁹。

- (i) アーカイブズへの導入、印象付け：アーカイブズへのオリエンテーションとして行われている内容。その施設全体の紹介、内部の案内、所蔵資料を見せ、説明したりする内容を含

む。アーカイブズになじみの薄い学生にアーカイブズの存在、役割を認知してもらう、といった目的がある。

- (ii) 資料の取り扱い方：各種所蔵資料の性質、耐久性などを説明し、資料の適切な取り扱い方、そのためのアーカイブズ内での規則、また保存のために行っている手立てについて理解させる内容。所蔵資料全般についての場合もあるが、授業内容に即した特定の種類の資料の扱い方に重点を置くこともある。
- (iii) 資料の組織と探索法：資料がどのように組織されているかについての理解と、それに基づいた目録、ファインディングエイドなどを利用した探索法、そして、それらの検索手段にある記述と実際の資料を関連付ける能力。実際に資料を学生に整理させたり、またデジタルアーカイブズを作成させたりする事例もある。
- (iv) 資料の解説と利用：資料をどのように解釈するか、そこからどのようなことを読み取るか、資料を批判的に検証することや、資料から新たな疑問点、課題を見つける、といった、アーカイブズの記録資料を一次資料として扱う内容が中心となる。また、個別の資料の成り立ち、メディアの特性に対する理解を含めるといった内容もある。

上記 (i) のオリエンテーション的な内容や、(ii) にあるような資料の扱い方に関する内容は、アーカイブズ利用のために必要な知識ではあるが、アメリカのアーカイブズではそれらにとどまらない教育を展開したいという動きがある。したがって、アーカイブズがその教育活動を充実していく上で、(iii) および (iv) の、より複雑な能力を必要とする内容に踏み込んでいる。個別の授業の範疇を超えて学生がアーカイブズの資料を自分で自身の目的のために利用できるようになるには、上記の (iii) にあるような一連のアーカイブズを利用できる能力、アーカイブズで資料を見つけ出せる能力を身につけることが必要となる。そして、アメリカの大学における事例の多くでは、とりわけ、(iv) にあるような、アーカイブズ資料を一次資料としてどのように理解し、利用するかということに重点がおかれ、一次資料を読み取る能力の大学教育における効果が強調されている¹⁰。

資料の解説と利用に関して、アーカイブズによる教育でよく強調されていることが、現物、オリジナルを使うことの意義である。資料から読み取れることは、そこにある文字情報といった明確なものだけではなく、紙の質感など、場合によっては現物に触れ、見ることでのみわかり、それが資料の理解に関連することがある、というものである。複製がある資料によっては、複製ではわからないこと、例えばページへの書き込みなどの複製には残らなかったものが、オリジナルの現物にはある場合がある。同様に、資料の電子化による利便性が向上した一方で、デジタル版ではわからないようなこと、そこでは残されなかったものも現物にはあったりすることを教えることが教育目的としてあげられていることがある¹¹。

(2) アーカイブズ記録の利用におけるリテラシー

アーカイブズにある資料の多くは「記録」という種類のものであり、それを一次資料として

利用することの教育効果には、記録の持つ性質、それらが一次資料として使われる際の性質が大きく関わってくる。アーカイブズにある資料に含まれる「記録」には、文書、写真、録音など様々なものが含まれるが、それらは個人や組織の活動の中で生み出されたものである。その意味で、書籍や雑誌記事、論文などといった、出来事などを直接に記録したものではない、いわゆる「加工された」内容を含む資料と区別することができる。このように、書籍などの二次的に作られた資料と異なる一次的な性質が、アーカイブズが取り扱う「記録」にあると考えられる¹²。実際には、一次資料をどのように定義するかについては学問分野によっても違いがあり、さらにその資料を扱う研究の目的、研究方法などによっても異なってくる¹³。一次資料の定義の一つの考え方として、研究者が直接に取り扱う、報告や分析を介さない資料が一次資料であるとされ、研究者にとっての二次資料とは、他者がアクセスしたデータに基づいた他者による分析といった種類のもつとされる。また、一次資料と二次資料の違いは、研究者が取り扱う研究テーマにもよる場合もある¹⁴。このように考えると、一次資料と二次資料の区別は固定的ではなく、研究、調査の内容によって変わりうる。ある研究においては一次資料として捉えられるものが、別の研究では二次資料として扱われる場合もある。

このような性質を持つアーカイブズの記録を、学生に単にそれらを見せて説明するのではなく、学生に資料を実際に触れさせて内容を分析させるという作業が、アーカイブズにおける教育に多く含まれている。アーカイブズの記録は、ここでいう二次的な資料にあるような分析、論点といったものを直接に語るものではない。こういった、一つの資料の解釈も人によって異なってくることもある、という側面を主要な学習目的として挙げている事例もある¹⁵。授業によっては、このような分析から実際に学生独自の疑問点や研究課題を見つけ出すことまでを内容に取り入れている。また、一次資料の利用で重要とされることの一つとして、個々の資料を、他の資料、またその資料が生まれた状況などの文脈の中に位置づけて見る、ということがある¹⁶。そして、さらに、一つまたは一連の資料群から異なった利用法、研究課題をみつけることも可能であることを理解させることもできる。このような、記録を一次資料として理解、検討するために必要な批判的思考力や、一次資料を利用することで育成することができる課題発見、解決能力が、教育において有益だと考えられている¹⁷。

3. 図書館における情報リテラシー、メディアリテラシーとの比較

(1) 図書館における情報リテラシーとの比較

図書館分野において提唱、実践されてきた情報リテラシー教育は、1989年にアメリカ図書館協会から出された情報リテラシーの定義を踏まえて発展し、高等教育に関する情報リテラシーについては、2000年にまとめられた、アメリカ大学・研究図書館協会（ACRL）による、「高等教育のための情報リテラシー能力基準」がある¹⁸。大学における情報リテラシー教育では、授業などにおける学生の課題解決のための作業の過程における情報リテラシーに重きをおいてき

た¹⁹。それらは、一般的に授業などでのレポート課題であり、レポートのテーマ決定のための情報、レポートという課題解決に必要な情報の同定、検索、評価と、それらの適切な利用法を教えることが中心となってきた傾向がある。こうした状況においては、必要とされる情報は主に学術情報であり、それらを検索するための図書館目録、主題別データベースなどの検索法、それらを通じた情報へのアクセスを教えることが、高等教育における情報リテラシー教育の中心となってきた。

情報リテラシー教育における、情報を評価するという側面については、学術情報とそうでないものを区別することが多く教育内容として取り上げられ、例えば学術雑誌と一般雑誌を見分ける、などの内容がよく見られてきた。また、文献だけではなく、ウェブ情報の評価といった内容も取り入れられてきた。その評価の内容は、アーカイブズの資料に対する評価と比較すると、異なる部分がある。学術情報を見分ける手がかりはある程度明確であるが、アーカイブズにある資料は一次資料として調査研究に利用できるものの、その資料そのものが学術情報というわけではない。また、資料を評価する手がかりも、学術情報、もしくは図書館で主に取り扱う資料である出版物のように明確ではない。出版物では明確であることが多い著者、その素性、対象読者、ジャンル、そして出版という社会的仕組みが与える信頼性、権威付けなどが、アーカイブズの記録では必ずしも明確ではない。したがって、図書館で主に取り扱うような図書、論文などの評価と、アーカイブズにあるような記録の評価では、その内容が異なってくる。例えば、情報を評価する状況においても、図書館における情報リテラシーでは、検索結果にある文献の適合性、信頼性を情報ニーズと照らして評価することが多いのに対し、アーカイブズの記録の場合は、記録そのものの素性、性質を知ることが評価という作業の中心となることが多い。したがって、図書館における情報リテラシー教育と比較すると、アーカイブズの資料の利用には、性質の異なった、また複雑な資料の評価が求められることとなり、それがアーカイブズにおける教育の特徴となっている。

さらに、図書館における情報リテラシーでは、特定の課題を解決する目的における情報探索、情報利用についてのリテラシーという形で教育が展開されることが多い。そこにおける情報探索の過程は、課題解決のための情報ニーズの認識から、情報源の同定、探索、利用、というプロセスとして捉えられることが多い²⁰。そして、そのための情報源として、図書館が取り扱う図書、雑誌などの資料が主に教育に取り上げられ、それらの探索方法を習得させることが教育の中心となっている傾向がある。図書館における、こういった資料の探索方法は以前から整備が進み、現在では多くの主題別もしくは横断型データベースが存在し、広く利用することができる。しかし、アーカイブズにある資料については、どのような資料が存在するか、どのような形で存在するかといった必要な資料の同定方法、またその探索方法は、図書館にある資料についてのものよりも複雑であり、一般的に知られているものではない。また、アーカイブズでの教育における特徴として、アーカイブズの記録をつなぎ合わせて、ある課題に対する手がかりを見つける、そして新しい課題を発見するという内容が強調されていることが、図書館に

における情報リテラシー教育との違いともいえる。

しかし、情報リテラシーが対象とする情報をめぐる環境は、それが提唱されて以来さらに大きく変化し、当時には見られなかった現象が現れ、それを情報リテラシー教育に取り入れていく必要性が議論されてきた。先の、高等教育のための情報リテラシー能力基準も、改定されたものが最近発表された²¹。情報をめぐる環境の変化としてとりわけ顕著なのは、Web 2.0 と呼ばれてきた、インターネットにおける情報の双方向性、多指向性であり、その代表的なものとしてソーシャルネットワークの台頭がある。そして、このような変化は、日常のコミュニケーション、娯楽にとどまらず、ネットワーク上でのコラボレーションによる学習の導入などに見られるように、教育、学習の方法にも影響を及ぼしている²²。

図書館分野での最近の動向の一つとして、Mackey and Jacobson が「メタリテラシー」という考え方を、多様な情報、メディアに関するリテラシーを包括した概念として提唱し、様々なリテラシー技術を活用でき、批判的思考力を持って情報を獲得するだけではなく、参加型デジタル環境において情報を発信し、共有することができる能力としている²³。情報リテラシーというものをこのように理解するとすれば、図書館における情報リテラシー教育においても、情報というものは、これまで図書館が主に取り扱ってきたような図書、雑誌などの媒体にとどまらず、インターネット、その他のメディアにある情報にも範囲を広げていくことになる。ユネスコも、以前から提唱してきたメディアリテラシーの枠組みを広げ、「メディア・情報リテラシー」として、様々な分野、メディアを包括したリテラシー能力として提示するようになった²⁴。

「メタリテラシー」に関する議論も、これまでのメディアリテラシーの動向、ユネスコの「メディア・情報リテラシー」を踏まえていることから、図書館における情報リテラシーとメディアリテラシーが近接しつつある動きを見ることができる。また、「メタリテラシー」では、批判的思考力が重視されている²⁵。この点において、後述するメディアリテラシーと共通しているといえる。そして、「メタリテラシー」がメディア学者である Peter Jenkins の参加型文化の考え方を援用している²⁶、といった接点も見ることができる。この参加型文化と呼ばれるような状況が生まれる以前から、メディアリテラシーでは、メディアを受け手として利用する能力だけでなく、発信することができる能力もその一部としている。図書館における情報リテラシーでは、情報を利用することに重点が置かれてきたが、この「メタリテラシー」にもあるように、情報を発信する能力を含む動きも現れていることにも両者の融合の動きを見ることができる。

「メタリテラシー」のような、以前からの情報リテラシーを拡大させていく動きと、メディアリテラシーとの接点からも、メディア、情報が混在していく中で、それに関するリテラシーを、以前のような個別な分野、メディアにおいてのみ捉えることだけでは限界があるという見方もできる。そして、アーカイブズにある様々な種類の記録も、そこにある情報は一定の時間が経過したものが多い、これまでは紙媒体などの物理的媒体に記録されたものが多い、という特徴があるにせよ、このような、情報、メディアについてのリテラシーが、それらを記録、伝達す

る媒体または分野による境界を超えつつある状況において理解されるべきであるともいえる。

(2) メディアリテラシーとの比較

メディアリテラシーについては、例えば、Hoechmann and Poyntz は、「我々がメディアテキストとメディアという仕組みを解釈でき、自分たちでメディアを作成し、日常生活におけるメディアの社会的、政治的影響を認識し、関わるができるための一連の能力」²⁷としている。メディアリテラシー教育の歴史は、1930年代頃まで遡ることができるとされている²⁸。メディアリテラシーについては、社会学、教育工学といった分野において研究、理論形成が進んできた²⁹。そして、メディアリテラシー理論の形成には、フランクフルト学派、カルチュラルスタディーズ、ブルデューの文化的再生理論などが影響を及ぼしてきた³⁰。メディアリテラシー教育について理論的に統合した人物として、Len Masterman 及び David Buckingham が挙げられる³¹。メディアリテラシー教育の推進に積極的な国の一つであるカナダでは、オンタリオ州の教育省が、1989年に次のようなメディアの基本概念を提唱し、カナダにおけるメディアリテラシー教育の基礎となっている³²。

- (1) 全てのメディアは造られたものである。
- (2) メディアは現実を形成する。
- (3) 視聴者はメディアにおける意味を交渉することで得る。
- (4) メディアには商業的側面がある。
- (5) メディアはイデオロギー、価値観を持ったメッセージを含む。
- (6) メディアには社会的、政治的側面がある。
- (7) 形式と内容はメディアと密接に関連する。
- (8) 個々のメディアは独特の美的様式を持つ³³。

メディアリテラシー教育は、こういったメディアの持つ性質を理解した上で、日常生活で接するメディアと関わり、また自らも発信できる能力を育成するものだといえる。この点で、図書館における情報リテラシーにある、情報を探索するという側面よりも、メディアという媒体で伝えられるものに対する理解を深めるという面が重視されている。図書館における情報リテラシー教育にも情報の内容を評価する内容が含まれるが、アーカイブズにおける教育では資料の内容を理解する、という点において情報の内容の評価がより大きく取り扱われる。この点において、メディアリテラシーにおけるメディアで伝えられる内容を理解するという点に関する教育は、アーカイブズにおける教育に見られるような、資料の性質を理解して、その内容を分析、解釈する、という部分に相似していると考えられる。

メディアリテラシーにおいては、批判的思考がメディアを理解する、読み解く際に必要な視点として位置付けられ、メディアリテラシー教育にとって重要なものとされてきた。批判的思考力については様々な議論、定義があるが、その中で森本は、メディアリテラシーにおいて議

論、言及されてきた「批判」ということについて検討し、「メディアリテラシー教育における「批判」とは、活字及び電子メディアなどのあらゆるメディアテキストを対象に、「なぜ」、誰が、「誰に向けて」それらのテキストがつけられているのかという、多様な観点からの問いかけを行い、それらのテキストを自らの価値判断（自分の所属するコミュニティの文脈）も含めて多面的に分析、評価し、最終的にはそのような自分の価値判断について問い直す（内省する）行為である」³⁴とまとめている。

アーカイブズの側でも、その教育活動において、資料の一次資料としての利用が批判的思考力育成につながるということがよく述べられている。その中で、Robyns がアーカイブズにおける批判的思考力について詳しく検討し、アーキビストにとっての批判的思考力として以下のような具体的な要素を上げている。

- (1) 事実の検証と、主張の信用性
- (2) 情報源の信頼性
- (3) 情報源、そして研究者自身にあるバイアスの判定と検出
- (4) 明らかではない、仮定となっているものを見つけること
- (5) 曖昧な、または曖昧に見せている主張、議論を見つけること
- (6) 推論の中にある論理的不整合や誤りを認識する
- (7) 根拠のある主張とそうでないものを見分ける
- (8) 論拠の強固さを判断する³⁵

Robyns が述べるように、歴史研究においては一次資料の解釈に批判的思考が要求される。歴史研究においては、資料がどこで、いつ、誰によって、どのような理由で作られたかが、一次資料を分析するときの要素となり、それに基づいて、研究者はその中身を検討して解釈している³⁶。そして、Robyns は、批判的思考により資料を分析する過程における、「記録の出処を確定、検証し、記述を作成し、整理するアーキビストの役割が研究者にとって重要であることを明白に見ることができる」³⁷と述べている。このことから、アーカイブズが行っている作業、アーキビストの能力が、研究者が資料を検討する際の批判的検討において重要ともなる。また、このような能力、役割があるがゆえに、アーカイブズによる批判的思考力を育成する教育の意義も見いだすことができる。

このように、メディアリテラシーにおいても、アーカイブズ資料の利用においても、さらには図書館における情報リテラシーの最近の動向においても、批判的思考力が重要なものとなっている。メディアリテラシー教育と、アーカイブズにおける教育は、それらが提供される状況は異なるにせよ、資料またはメディアにあるテキストが誰によってどのような目的で作られ、誰に向けて発信しているかを評価することが主眼となり、それらが生み出された、または発信された状況、文脈を検討することもメディアリテラシー教育、アーカイブズにおける教育共にお

いて見られる。その文脈、状況というものに両者における相違をあえて見出すとすれば、メディアリテラシーでは、カルチュラルスタディーズなどの流れを汲んで、メディアという仕組みとそれとメディアの受け手がある社会、文化的状況というものが前提となってくる傾向がある。そこで意識されているのは、例えば、メディアに現れる階級、人種、ジェンダー、権力であったりする³⁸。アーカイブズ資料の利用では、そういった前提ではなく、そこで言われる文脈は、資料を見る側の研究や学習の目的によって変わりうる。ある研究や調査では、特定の状況、集団などが資料を検討するときの文脈として存在するが、それは必ずしもメディアリテラシーで意識されるような社会全体を対象とするわけではないことがある。しかし歴史研究においては、過去の資料を検討する際に、当時の社会、文化などの枠組みを理解することが必要となり、それらが現在とは異なることも把握しておく必要があり、研究、調査の内容によって資料を読む際に意識する文脈、状況が異なってくる。

メディアリテラシーは、何らかのメッセージを発信する手段としてのメディアを対象とすることが多い。そこに明らかにあるメッセージだけではなく、明らかにされないメッセージをも読み取ることがメディアリテラシーにおいて重要とされている³⁹。アーカイブズにある記録にも、このような誰かに向けてのメッセージを含むものがある。それはメディアリテラシーが主に対象とする、大衆に向けてのものもあれば、特定の集団、人物に向けたものなど様々である。さらに、アーカイブズの記録には、意図されたメッセージがないようなものも多くある。組織の記録など、その時の出来事を記録する目的で作られたもので、そこには必ずしも特定の意図、思想、感情のようなものがあるわけではないものもある。メディアリテラシーが対象とする個々のメディアが一般的に何らかのメッセージを持っているものとするならば、アーカイブズにある記録が必ずしもそうではないところに、記録を理解することの違いがあるといえる。また、アーカイブズの記録を一次資料として利用する教育では、個々の記録を見るだけでは見えないことを、資料をつなぎ合わせることで見つけていくような内容がその特徴としてある。情報、メディアを受け手として理解することとは異なり、記録を検討すること、複数の記録を結びつけることで何かを発見する、または新しい課題を見つける、ということがアーカイブズにおける教育の実践で強調されていることの一つである。図書館における情報リテラシー教育が、主に課題解決のための情報利用に重点を置き、メディアリテラシーでは、メディアから発信される内容を、日常生活、社会参加において、適切に理解することに重点を置いていることと比較すると、アーカイブズにおける教育においては、この、資料を繋げていくことで新たな発見をする、課題を見つけるという側面がより際立っている。

4. 結論

アメリカの大学にあるアーカイブズで展開されている利用者教育の多くが、アーカイブズが取り扱う記録を一次資料として利用することで、批判的思考力、課題発見、解決能力を養うも

のとなっている。この側面において、アーカイブズに密接に関わる特定の学問分野に留まらない、現代社会で重要とされる情報リテラシーなどと呼ばれる能力と関連している。図書館における情報リテラシー教育は、実際には様々な取り組み、考え方があがるが、一般的には図書館で取り扱う図書、雑誌などにある情報の探索、利用に重点を置き、主に課題解決のための情報の利用という側面を扱う傾向があった。メディアリテラシー教育における、メディアを理解するために必要な批判的思考力という側面には、アーカイブズにある記録を分析する際に求められる能力と、双方の教育が展開される環境や対象としている内容は異なるが、相似している部分がある。図書館における情報リテラシー教育においても、情報の評価という側面は以前から重要な部分ではあったが、アーカイブズの記録の評価では、図書館で主に取り扱う資料を評価することとは異なった能力が求められる。

アーカイブズにある記録を一次資料として利用する教育には、図書館における情報リテラシー教育、メディアリテラシー教育との共通点もある中で、個別の資料だけではなく、資料を繋ぎ合わせてそれらの資料を理解、利用すること、そして、情報、メディアの受け手としての分析、課題解決のための利用だけではなく、記録資料から新しい課題を見つけるという点に特徴を見出すことができる。これらがアーカイブズの記録を利用した教育でのみ可能であるものというわけではないが、アーカイブズが、一次資料としての性質を持った様々な種類の記録を保管し、それらがそこで整理されている場所としてあることが、このような教育にとって有効であることが示唆される。情報、メディアを取り巻く環境が変化し、情報リテラシー、メディアリテラシーといった個別の近接分野のリテラシーが変化し、一部では融合しつつある動きもある中で、アーカイブズを有効に活用したりテラシー教育が展開できる可能性がある。

注

- 1 Eleanor Mitchell, Peggy Seiden, and Suzy Taraba, ed., *Past or Portal? Enhancing Undergraduate Learning through Special Collections and Archives* (Chicago: Association of College and Research Libraries, 2012), ix.
- 2 Elizabeth Yakel, "Foreword," in *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, ed. Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina (Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014), xiv.
- 3 Shan Sutton and Lorrie Knight, "Beyond the Reading Room: Integrating Primary and Secondary Sources in Library Classroom," *The Journal of Academic Librarianship*, 32, no.3 (2006): 321.
- 4 上田雄太「高等学校の情報リテラシー教育におけるアーカイブズ活用教育の必要性について」、『レコード・マネジメント』65号、2013年、100-108頁
- 5 David Bawden, "Being Fluent and Keeping Looking," in *Information Literacy: Lifelong Learning and Digital Citizenship in the 21st Century: Second European Conference, ECIL 2014, Dubrovnik, Croatia, October 20-23, 2014 Proceedings*, ed. Serap Kurbanoglu, Sonja Spiranec, Esther Grassian, Diane Mizachi, and Ralph Catts (Cham: Springer, 2014), 13-15.
- 6 Tibor Koltay, "The Media and the Literacies: Media Literacy, Information Literacy, Digital Literacy," *Media, Culture & Society* 33, no.2 (2011): 211-221.
- 7 Elizabeth Yakel and Deborah A. Torres, "AI: Archival Intelligence and User Expertise," *The*

- American Archivist* 66 (2003): 51-52.
- 8 Ibid., 52. [] 内は当該引用文献を元にして筆者が補足した。
 - 9 以下の書籍にある事例を中心に検討した。Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina ed., *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises* (Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014). Eleanor Mitchell, Peggy Seiden, and, Suzy Taraba, *Past or Portal? Enhancing Undergraduate Learning through Special Collections and Archives* (Chicago: Association of College and Research Libraries, 2012). また、こういった教育活動を理解する目的で、ダートマス大学のアーカイブズ、デポール大学の特殊資料コレクションを訪問調査した。(2014年9月実施。京都ノートルダム女子大学研究助成金による。) この調査を中心に動向を述べたものとして以下がある。鎌田 均「米国の高等教育におけるアーカイブズの教育活動」、『アーカイブズ学研究』24号、2016年、86-91頁
 - 10 Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina, ed., *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises* (Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014), xiii-xx.
 - 11 例えば以下のような事例がある。Mattie Taormina, “Engage Those Senses! Surrogates Are Not Enough,” in *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, ed. Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina (Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014): 144-148.
 - 12 Justine Cotton and David Sharron, *Engaging Students with Archival and Digital Resources*, (Oxford: Chandos Publishing, 2011), 4.
 - 13 Michael J. Paulus, “What is Primary: Teaching Archival Epistemology and the Sources Continuum,” in *Past or Portal? Enhancing Undergraduate Learning through Special Collections and Archives*, ed. Eleanor Mitchell, Peggy Seiden and Suzy Taraba (Chicago: Association of College and Research Libraries, 2012), 76.
 - 14 Emmett Lombard, “Primary and Secondary Sources,” *The Journal of Academic Librarianship* 36, no.3 (2010): 252-253.
 - 15 Jenny Swadosh, “Working Backward: Starting with an Endnote to Teach Primary Source Research Skills,” in *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, ed. Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina (Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014), 30-34.
 - 16 Morgan Daniels and Elizabeth Yakel, “Uncovering Impact: The Influence of Archives on Student Learning,” *The Journal of Academic Librarianship* 39 (2013): 415.
 - 17 Bahde, Smedberg, and Taormina, *Using Primary Sources*, xviii. 一次資料の利用と情報リテラシーとの関連については、鎌田均「一次資料の利用と情報リテラシー：米国大学図書館における特殊資料コレクション、アーカイブの教育的役割から見て」、『同志社図書館情報学』23号、2013年、1-15頁
 - 18 Dane Ward, “Re-visioning Information Literacy for Lifelong Meaning,” *Journal of Academic Librarianship* 32, no.4 (2006): 396-398. Association of College and Research Libraries, *Information Literacy Competency Standards for Higher Education* (Chicago: American Library Association, 2000), 2, 7, 15.
 - 19 Beth McDonough, “Beyond Tools and Skills,” in *Not Just Where to Click: Teaching Students How to Think about Information*, ed. Troy A. Swanson and Heather Jagman (Chicago: Association of College and Research Libraries, 2015), 39-40.
 - 20 David Bawden and Lyn Robinson, “The Dark Side of Information: Overload, Anxiety, and Other Paradoxes and Pathologies,” *Journal of Information Science* 35, no.2 (2009): 187.
 - 21 Association of College and Research Libraries, “Framework for Information Literacy for Higher Education,” *Association of College and Research Libraries*, accessed August 8, 2016, <http://www.ala>.

- org/acrl/standards/ilframework.
- 22 Donna Wiltek and Teresa Grettano, "Teaching Metaliteracy: A New Paradigm in Action," *Reference Services Review* 42, no.2 (2014): 189-190.
- 23 Thomas P. Mackey and Trudi E. Jacobson, *Metaliteracy: Reinventing Information Literacy to Empower Learners* (Chicago: Neal-Schuman, 2014), 2-6.
- 24 Alton Grizzle and Maria Carme Torras Calvo, ed., *Media and Information Literacy: Policy & Strategy Guidelines* (Paris: UNESCO, 2013), 13-17.
- 25 Mackey and Jacobson, *Metaliteracy*, 1-4.
- 26 Ibid., 50-52.
- 27 Michael Hoechsmann and Stuart R. Poyntz, *Media Literacies: A Critical Introduction* (Malden, MA: Wiley-Blackwell, 2012), 1.
- 28 森本洋介『メディア・リテラシー教育における「批判的」な思考力の育成』東京：東信堂、2014年、4、28頁
- 29 同上、28頁
- 30 同上、32-43頁
- 31 同上、43-44頁
- 32 Hoechsmann and Poyntz, *Media Literacies*, 65.
- 33 John Pungente, "Canada's Key Concepts of Media Literacy," *Center for Media Literacy*, accessed December 12, 2016, <http://www.medialit.org/reading-room/canadas-key-concepts-media-literacy>. Hoechsmann and Poyntz は以下を引用している。Ministry of Education, Ontario, *Media Literacy: A Resource Guide* (Toronto: Queen's Printer of Ontario, 1989), 8-10.
- 34 森本、前掲、94頁
- 35 Marcus C. Robyns, "The Archivist as Educator: Integrating Critical Thinking Skills into Historical Research," *The American Archivist* 64, no.2 (2001): 368.
- 36 Ibid., 370-371.
- 37 Ibid., 370.
- 38 Douglas Kellner and Jeff Share, "Critical Media Literacy Is Not an Option," *Learning Inquiry* 1 (2007): 62.
- 39 Art Silverblatt, Andrew Smith, Don Miller, Julie Smith, and Nikole Brown, *Media Literacy: Keys to Interpreting Media Messages: Fourth Edition* (Santa Barbara: Praeger, 2014), 11.

参考文献

- Association of College and Research Libraries. "Framework for Information Literacy for Higher Education." *Association of College and Research Libraries*. Accessed August 8, 2016, <http://www.ala.org/acrl/standards/ilframework>.
- Association of College and Research Libraries. *Information Literacy Competency Standards for Higher Education*. Chicago: American Library Association, 2000.
- Bahde, Anne, Smedberg, Heather, and Taormina, Mattie, ed. *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*. Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014.
- Bawden, David. "Being Fluent and Keeping Looking." In *Information Literacy: Lifelong Learning and Digital Citizenship in the 21st Century: Second European Conference, ECIL 2014, Dubrovnik, Croatia, October 20-23, 2014 Proceedings*, edited by Serap Kurbanoglu, Sonja Spiranec, Esther

- Grassian, Diane Mizachi, and Ralph Catts, 13-18. Cham: Springer, 2014.
- Bawden, David and Robinson, Lyn. "The Dark Side of Information: Overload, Anxiety, and Other Paradoxes and Pathologies." *Journal of Information Science* 35, no.2 (2009): 180-191.
- Cotton, Justine and Sharron, David. *Engaging Students with Archival and Digital Resources*. Oxford: Chandos Publishing, 2011.
- Daniels, Morgan and Yakel, Elizabeth. "Uncovering Impact: The Influence of Archives on Student Learning." *The Journal of Academic Librarianship* 39 (2013): 414-422.
- Grizzle, Alton and Torras Calvo, Maria Carme, ed., *Media and Information Literacy: Policy & Strategy Guidelines*. Paris: UNESCO, 2013.
- Hoechsmann, Michael and Poyntz, Stuart R. *Media Literacies: A Critical Introduction*. Malden, MA: Wiley-Blackwell, 2012.
- Kellner, Douglas and Share, Jeff. "Critical Media Literacy Is Not an Option." *Learning Inquiry* 1 (2007): 59-69.
- Koltay, Tibor. "The Media and the Literacies: Media Literacy, Information Literacy, Digital Literacy." *Media, Culture & Society* 33, no.2 (2011): 211-221.
- Lombard, Emmett. "Primary and Secondary Sources." *The Journal of Academic Librarianship* 36, no.3 (2010): 250-253.
- Mackey, Thomas P. and Jacobson, Trudi E. *Metaliteracy: Reinventing Information Literacy to Empower Learners*. Chicago: Neal-Schuman, 2014.
- McDonough, Beth. "Beyond Tools and Skills." In *Not Just Where to Click: Teaching Students How to Think about Information*, edited by Troy A. Swanson and Heather Jagman, 37-51, Chicago: Association of College and Research Libraries, 2015.
- Mitchell, Eleanor, Seiden, Peggy, and Taraba, Suzy, ed. *Past or Portal? Enhancing Undergraduate Learning through Special Collections and Archives*. Chicago: Association of College and Research Libraries, 2012.
- Paulus, Michael J. "What is Primary: Teaching Archival Epistemology and the Sources Continuum." In *Past or Portal? Enhancing Undergraduate Learning through Special Collections and Archives*, edited by Eleanor Mitchell, Peggy Seiden and Suzy Taraba, 76-82. Chicago: Association of College and Research Libraries, 2012.
- Pungente, John. "Canada's Key Concepts of Media Literacy." *Center for Media Literacy*. Accessed December 12, 2016. <http://www.medialit.org/reading-room/canadas-key-concepts-media-literacy>.
- Robyns, Marcus C. "The Archivist as Educator: Integrating Critical Thinking Skills into Historical Research." *The American Archivist* 64, no.2 (2001): 363-384.
- Silverblatt, Art, Smith, Andrew, Miller, Don, Smith, Julie, and Brown, Nikole. *Media Literacy: Keys to Interpreting Media Messages: Fourth Edition*. Santa Barbara, Praeger, 2014.
- Sutton, Shan and Knight, Lorrie. "Beyond the Reading Room: Integrating Primary and Secondary Sources in Library Classroom." *The Journal of Academic Librarianship*, 32, no.3 (2006): 320-325.
- Swadosh, Jenny. "Working Backward: Starting with an Endnote to Teach Primary Source Research Skills." In *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, edited by Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina, 30-34. Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014.
- Taormina, Mattie. "Engage Those Senses! Surrogates Are Not Enough." In *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, edited by Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina,

- 144-148. Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014.
- Ward, Dane. "Re-visioning Information Literacy for Lifelong Meaning." *The Journal of Academic Librarianship* 32, no.4 (2006): 396-402.
- Wiltek, Donna and Grettano, Teresa. "Teaching Metaliteracy: A New Paradigm in Action." *Reference Services Review* 42, no.2 (2014): 188-208.
- Yakel, Elizabeth. "Foreword." In *Using Primary Sources: Hands-On Instructional Exercises*, edited by Anne Bahde, Heather Smedberg, and Mattie Taormina, vii-viii. Santa Barbara: Libraries Unlimited, 2014.
- Yakel, Elizabeth and Torres, Deborah A. "AI: Archival Intelligence and User Expertise." *The American Archivist* 66 (2003): 51-78.
- 上田雄太「高等学校の情報リテラシー教育におけるアーカイブズ活用教育の必要性について」、『レコード・マネジメント』65号、2013年、100-108頁
- 鎌田 均「一次資料の利用と情報リテラシー：米国大学図書館における特殊資料コレクション、アーカイブの教育的役割から見て」、『同志社図書館情報学』23号、2013年、1-15頁
- 鎌田 均「米国の高等教育におけるアーカイブズの教育活動」、『アーカイブズ学研究』24号、2016年、86-91頁
- 森本洋介『メディア・リテラシー教育における「批判的」な思考力の育成』東京：東信堂、2014年